

ヘルスリテラシー教育は子どものうちから

ー地域の課題解決を試みるー

荒木 亜紀子

川崎市立井田病院図書室／かわさき医療情報ネットワーク

発表者は所属する病院のがんサロンや患者用サロン兼患者図書「ほっとサロンいだ」各種プログラムにて、様々な患者さんと関わってきた。しかしそこでは見たものは、がんなどの病気になって様々な情報に翻弄されたり、病気になってはじめて自分の身体に向き合わざるを得ない状況に置かれたりする患者さんやご家族の姿であった。病気になる健康なうちから、強いて言えば子どものうちから自分自身の身体や心のことを「自分事」として捉える機会があってもいいと考えた。そこで地域の図書館員や医療者、市民ボランティアなどの仲間と市民団体「かわさき医療情報ネットワーク」を結成し、子ども向けの講座を2014年、2015年と2カ年実施した。その報告と今後の展開を紹介する。

【講座の概要】

2014年講座『親と子の絵本で知る障がいと病気』全2回講座

第1回保護者向け講座

第2回親子ワークショップ

2015年講座『こすぎこども大学医学部-しりたいからだとこころのこと』全3回講座

第1回講座「しんぞう、ドッキドキ！」

第2回講座「めざせ、キッズドクター！」

第3回講座「ココロ探検隊」

